

## 平成 30 年度 研究計画書

### Research Plan FY2018

講座名・職名 Course Title・Job Title	ヨーロッパ I 講座・教授
氏名 Name	中川 裕之
専門分野 Academic Field	ドイツ語学/言語学, 外国語教育, 地域研究

#### 平成 30 年度 研究計画 (ホームページで公開) Research Plan FY2018 (Post on Website)

主たる研究テーマ Principal Research Subject	ドイツ、スイス、オーストリア、ハンガリー、ポーランドにおける言語共同体と移民・外国人をめぐるドイツ語ディスコース研究				
研究計画 (400 字~500 字で記入すること。) Research Plan (Approximately 100 Words)					
<p>平成 25~29 年度にかけて採択実績を重ねている研究推進経費による研究成果刊行助成に本年度も引き続き応募し、これを統括・推進する計画である。この研究プロジェクトは、本研究科言語社会専攻ドイツ語部会のドイツ語学/言語学系の教員による研究を基盤としながら、隣接する関連研究者らと継続的かつ機動的に連携し進めているユニークな試みである。この研究の主たる対象地域はドイツ語圏であるが、ドイツ語との二言語併用地域もしくは多言語地域 (または国家) および歴史上強い関連のあった隣接地域までを視野に収めている。とりわけ言語マイノリティからの観点を重視した社会言語学的ディスコース研究の一層の充実を試みる。筆者が平成 27~29 年度にかけて取り組んだ科学研究費基盤研究 (C)「スイスにおけるレト・ロマン語の社会言語学的・異文化コミュニケーション的研究」は事業期間を終えたため代表者として新たな研究プロジェクトを立ち上げる。今年はその初年度となるため、ドイツ、スイス、オーストリア、イタリア、ハンガリー、ポーランドなどにおける言語共同体の各種資料や、移民や難民、外国人をめぐるドイツ語ディスコース—とりわけ各種メディア (新聞、雑誌などのコーパス)—を活用した共時的社会言語学的実証研究と通時的文献学的研究を進めるべくパイロット研究に着手する。これまでに構築してきた国内外の関連研究者とも交流と議論を重ねながら、多言語多文化共存に資する実質的で実現可能な言語文化政策について、人文社会学的見地からの比較検討を行う。本プロジェクトから生まれる研究成果については、随時、口頭発表や論文、報告書として刊行し発表することによって学会や学生、社会への還元を努める。</p>					
共同研究可能な分野 Research Fields feasible for joint research *1	言語学 (ドイツ語)	社会言語学 (コーパス)	外国語教育 (ドイツ語)	ヨーロッパ社会 (ドイツ、スイス、オーストリア、イタリア、ハンガリー、ポーランド)	地域研究 (ヨーロッパ)
キーワード Keywords*2	ドイツ語	コーパス	多言語多文化主義	移民・外国人問題	ディスコース